新潟町の誕生と変遷

砂丘と町

1 砂州と砂丘

新潟の町は、信濃川や阿賀野川が運ぶ土砂で地形を変化させてきました。河口に運ばれた土砂が潮に押し戻されて作った砂州は、次第に岸に寄り付いて新しい土地になりました。一方、内陸に飛ばされた砂は砂丘を作ります。海岸寄りの砂丘は、分水路などの建設で土砂の量が減る近年まで成長を続けていました。

川は海岸砂丘に流れを妨げられ、河口の位置を変化させます。図1を見ると、この時代の信濃川と阿賀野川は河口の同じ場所で、川幅の広い信濃川には**寄居島**、**白山島**という大きな中州があるのがわかります。

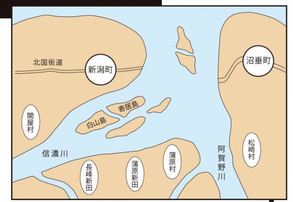


図1●正保国絵図に見える新潟町と白山島
（「正保2(1645)年越後国絵図」（新発田市立図書館所蔵）から作成）

2 明暦の移転

戦国時代の終わりから江戸時代のはじめ頃まで、新潟町は今の場所ではなく、砂丘の上にあったといわれています。元禄11（1698）年の絵図（図2A）には**古新潟町跡**という記載が残されています。

寛永15（1638）年、新潟を統治していた長岡藩主・**牧野忠成（まきのただなり）**は、信濃川の流れが変わって港が機能しなくなったので新潟町を移転させたいと幕府に申請します。移転先は**寄居島**、**白山島**で、明暦元(1655)年にほぼ移転が完了します（**「明暦の移転」**図2B**の周辺**）。町割りは、それまでの「古新潟」のものをあまり崩さずに作られ、交通の動脈として南北方向に「片原堀（東堀）」「寺町川（西堀）」と「通り」を、東西方向には5本の「横堀」と「**小路**」を設けました。このときできた町が、**現在の新潟市の中心部**です。

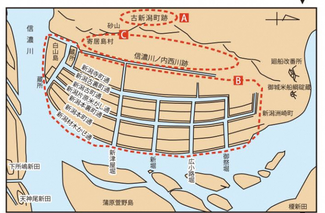


図2●元禄11(1698)年の絵図に見える古新町
（「蒲原新潟立会小絵図」から作成）

長岡藩は「寄居村」から耕地を取り上げ、代わりに後の寺町裏手の古川跡（図2C**の周辺**）を与えます。これは信濃川の分流で、この頃にはほぼ埋まっていたと考えられます。また、「白山島」から神社地を除く社領を取り上げ、代わりに平島村の一部を与えました。

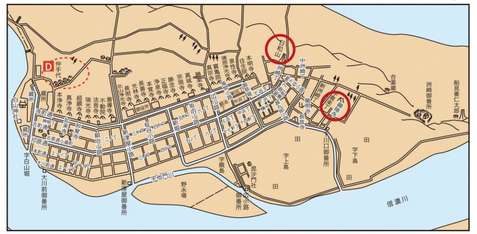


図3●慶応2(1866)年新潟町の町名と小路名
（「新潟市史 資料編2」から）

3 砂との戦い・新潟町と寄居村

移転後も土砂の堆積は続き、河口の新しい土地と海岸の砂丘は増え続けていました。

嘉永年間（1848～54）頃、仲（すあい）役所の手代が**寄居村**から土地を借り家を建てます（図3B）。ここは**砂丘の高台**で、一番最初に朝日があたることから**朝日町**と名付けられました。現在の**旭町**の始まりです。

砂丘の増大は、深刻な飛砂被害をもたらしました。明暦の移転で**現在の寺裏通周辺（図2C）**へ移された**寄居村**は、元文・寛保（1736～44）頃、飛砂被害から逃れるために現在の**新潟大学医学部付近**へ移転します。しかしここでも被害にあい、明和・安永（1764～81）頃に**現在の寄居町の場所**に移りました。

飛砂対策の**砂防林事業**は、元和3(1617)年、当時新潟を統治していた長岡藩主・**堀直寄（なおより）**による植林が始まりとされていますが、本格的な造成は町の人たちが奉行所に願い出て植林を始めた宝暦年間（1751～63）以降でした。天保14(1843)年、幕府領となった新潟町の初代奉行・**川村修就（ながたか）**も事業を継続し、翌年日和山から願随寺周辺に松苗を植え付けさせました（図4）。

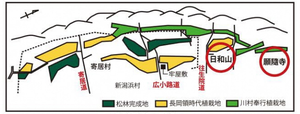
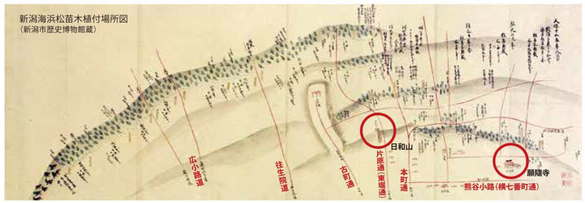


図4●砂防林の形成（「嘉永四年四月浜浦御林分検絵図」
※点線内は寄居村地内（昭和9年版「新潟市史」上巻所収から作成）



天保15年（1844）8月の植林には、川村奉行が自ら**日和山**（東堀通13番町）の植え付け現場へ行き指示を出しました。**願随寺**（元祝町）から日和山の間に**3375本**の松が植えられた晩、川村は「**移し植えし二葉の松に秋の月 梢のかげは だれか仰がん**」と詠んだと伝えられています。

植林はその後も毎年実施され、嘉永2年（1849）までに願随寺裏から本覚寺（NEXT21隣）裏にかけて、合計2万6千本の松が植えられました。

松林の川村修就像（西海岸公園）

川村修就の砂防林小路のなごりは日和山共同墓地周辺でも見ることができます。

御林（おはやし）

宝暦年間（1751～64）以降の植林によって造成された砂防林のうち、現在の旭町通（新潟大学歯学部）付近から願随寺（元祝町）付近にかけての約14.6ヘクタールは、嘉永四年（1851）幕府の勘定奉行が管理する山林「**御林**（おはやし）」に指定されました。西大畑町には、由緒の「御林神社」が残されています。

新潟町の年寄、小田平右衛門が建立した御林稲荷（西大畑町）

4 開化政策の舞台・坂の上の町

安政5(1858)年、新潟は日米修好通商条約で開港場のひとつに指定され、戊辰戦争後の明治元(1868)年に開港します。明治5(1872)年に最初の新潟県令（後の知事）として着任した**楠本正隆（くすもとまさたか）**は、治安維持、衛生環境の整備など次々と**開化政策**を進めていきます。町を用途によって分け、景観の整備にも取り組みました。

町の西南の砂丘地から白山神社の地区は**文明開化を象徴する建物の並ぶ地区**として、**医学校（新潟病院）・新潟学校・師範学校**など大きな洋風の建物を建て、町名も**医学町・学校町・学校町通**と名付けました。住宅街にも地域によって建物の基準を設け、統一感のある町並づくりを行っています。また、白山神社の境内にあった蔵や小さな社を取り払って、花壇や樹木を配した日本最初の都市公園**新潟遊園（現在の白山公園）**を開園しました。

明治14(1881)年の「新潟港実測図」（図5、新潟大神宮所蔵）には、今とほぼ同じ位置にある砂丘が描かれています。また、絵師・吉田初三郎が描いた昭和12(1937)年の新潟町の鳥瞰図（図6）には、白山公園と坂の上に並ぶ学校や病院などの洋風の建物が生き生きと描かれ、楠本県令が目指した**開化の町並み**のその後がよくわかります。

図5●明治14(1881)年新潟港実測図（部分）（新潟大神宮所蔵）

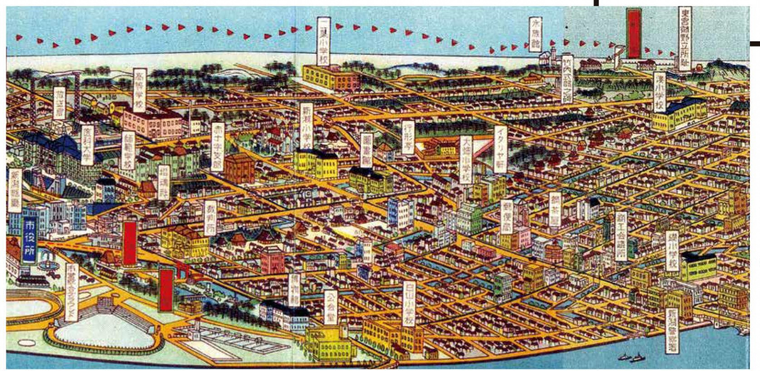


図6●昭和12(1937)年頃の新潟市（部分）（日本海大博覧会事務局「新潟市鳥瞰図」吉田初三郎画）★
※この鳥瞰図は、昭和13年に予定されていた「日本海大博覧会」宣伝用に当時作成されたものです。一部当時のまちの様子と異なる部分があります。

古町通13番町からの寺町の眺め

5 新潟町と寄居村の境に並ぶ「寺町」

古い歴史がある新潟町のお寺（表1）が、現在の西堀通沿いに並ぶようになったのは**明暦の移転**の時とされています。当時ここは**新潟町と寄居村の境の場所**でした。図4には寺町通（現在の西堀通）に並ぶ慶応2(1866)年のお寺が記されていますが、昭和12(1937)年の吉田初三郎の鳥瞰図（図6）にも、同じ場所にあるお寺のようすが詳細に描かれています。現在では、西堀通6番町のNEXT21の展望室から町の中に一列に並ぶ**寺町**を一望することができます。初三郎の絵と比べてみるのも楽しいですね。

平成22(2010)年、新潟市は**西堀寺町**に、お寺の歴史やお寺にまつわるできごとを紹介する**案内板**を設置しました（裏面地図参照）。様々な史実の舞台となってきた寺町散策のナビゲーターとして、どうぞご活用ください。

NEXT21の展望室から見た寺町。左が下町（信濃川下流）方向、右が上（上流）方向

案内板

	宗派	寺院名(現住所)	創立・転入時期 備考
上杉氏の時代	浄土	長善寺（小新西）	天文2(1533)年 元亀2年移転説あり
	曹洞	法音寺（西堀3）	天文3(1534)年 出湯で開基
	浄土	善導寺（西堀4）	天文3(1534)年 開基僧天文16年没の説あり
	曹洞	瑞光寺（西堀3）	永禄3(1560)年
	真言	不動院（西堀4）	永禄年間(1558～70) 永禄年間中興説あり
	真言	真統院（西堀8）	元亀2(1571)年 元亀2年中興説あり
	日蓮	長照寺（西堀5）	天正3(1575)年
	真大	真宗寺（西堀9）	慶長1(1596)年 加賀で開基→秋田→新潟と移転
	曹洞	宗現寺（西堀7）	慶長1(1596)年 天正年間開基説あり
	真大	真浄寺（西堀2）	慶長2(1597)年 信州赤沼村で開基
1598 堀秀治	浄土	往生院（西堀11）	慶長3(1598)年 慶長中若松から移転説あり
	真大	勝栄寺（西堀8）	慶長8(1603)年 加州安宅で開基 慶長10年移転説あり
	真大	泉性寺（西堀10）	慶長9(1604)年 慶長9年弥彦庄村山から移転説あり
1610 松平忠輝	浄土	光林寺（西堀5）	慶長11(1606)年 会津若松で開基 一時潟にて在住伝承あり
1616 堀直寄	真大	正福寺（西堀7）	慶長年中(1596～1615) 信州田田村で開基 天正3年移転説あり
元和の町建て			
1618 牧野忠成（初代）	真大	願念寺（西堀7）	元和4(1618)年 加州今津村で開基
	真大	超願寺（西堀2）	元和5(1619)年 加賀→佐渡→新潟と移転
	真大	浄泉寺（西堀6）	元和5(1619)年 加州横村で開基 慶長2年移転説あり
	真本	本浄寺（西堀1）	寛永7(1630)年 加州大聖寺
	真言	宝亀院（西堀9）	寛永15(1638)年 越前で開基 加賀から来たとの伝承あり
	浄土	本覚寺（西堀6）	寛永年間(1624～44) 蒲原で開基 天正初年蒲原から移転との伝承あり
明暦の移転			
1655 牧野忠成（2代）	真本	北山浄光寺（西堀5）	明暦年間(1655～58) 蒲原で開基 中古島屋野村からの移転説あり
	真本	蒲原浄光寺（西堀10）	寛文11(1671)年 蒲原より移転

表1●新潟町の寺町 寺院の開基・転入年（原則として昭和9年刊行「新潟市史」を基本にしたもの）
真大＝浄土真宗大谷派・真本＝浄土真宗本願寺派　宝亀院成立年代は伽賀尊が白山社別当を命じられた年とした